

## 令和 8 年度研究推進計画

学 校 名 東広島市立板城小学校

校 長 名 中野 詠美子

## 1 研究主題等について

## (1) 研究主題

「主体的に自分を表現する児童の育成」  
～安心して表現できる学びの場の工夫を通して～

## (2) 主題設定の理由

昨年度は、主体的に自分を表現する児童育成に向けて、国語科、算数科、特別支援教育で多様な表現方法を取り入れた学習場面を工夫する授業研究を行った。

各教科・領域に応じて多様な表現方法を取り入れた学びの場を設定し、児童がその表現方法を活用して、他者との対話を通して学びを深める実践を行った。その結果、主体的に自分を表現する児童を育成するためには、①安心して表現できる学習環境の保障、②多様な表現方法の提示と選択、③児童が互いに関わり合う場の設定が有効であることが明らかになった。児童一人一人の課題やめざす姿を明確にし、操作活動や体験活動、ICTを活用した表現の工夫を行うことで、児童は自分の考えや気付きを可視化し、言葉や態度で表そうとする姿を多く見せるようになった。また、自分に合った表現方法を選べる学習場面は、学習への主体性を高め、学習意欲や自己肯定感の向上にもつながった。これらのことから、多様な表現と対話を通じた学びが、主体的な自己表現の育成に寄与することが成果として確認できた。

主体的に表現できる児童が増える一方で、自分の思いや考えをもっている、表現の仕方が分からずに困る児童が依然として見られたことが課題であった。特に、語彙の不足や、考えを整理して伝える力に個人差が大きかった。また、既習事項の定着状況や理解の深まり方にも差があることがわかった。話し合い活動では、友達の意見につながって発言することが難しい児童もおり、相互に反応し合う対話の質を高める支援の必要性が明らかになった。また、自分の思いや考えに自信をもてず不安を抱えている児童もおり、安心して表現できる学習環境づくりが大切であるとわかった。

そこで本年度は、特に国語科及び算数科において、児童が自分の思いや考えを自信をもって表現できるための素地の育成を進めていく。安心して表現できる学びの場とは、「自分のよさが認められている」と感じている学習集団である。本校では、年間を通してその学びの場の形成を図る。その基盤の上で、国語科・算数科の知識及び技能の確実な定着を図っていく。これら二つのことが「主体的に自分を表現する児童」の育成につながると考える。その実現のために、まず教員間で「主体的に自分を表現する児童」の具体的な姿について共通認識をもち、本校研究内容に取り組んでいきたい。

## 〈研究仮説〉

国語科及び算数科において、児童一人一人が基礎的・基本的な能力を定着できる場を設定して理解を深め、協働学習の場で自分の思いや考えを共有することを往還すれば、主体的に自分を表現するための素地が高まるであろう。

## (3) 研究内容

- 教師の指導力向上に関わる研究
- ICT活用力向上に関わる研究
- 児童、教師の意識向上に関わる研究

## 2 検証計画

### 検証の視点と方法

検証の視点	方法	検証の指標	達成目標
① 知識及び技能の育成	単元末テスト	単元末テスト 知識及び技能項目	基準の正答率以上の児童の割合 80%以上 学年別正答率 低学年：80% 中学年：85% 高学年：90%
② ICT活用力の向上	・アンケート ・市内タイピング大会結果	・児童アンケート ・第1回と第3回の結果の変容 (第4学年以上)	・肯定的評価 80%以上 ・合格基準をクリアした児童の割合 80%以上
③ 主体的・対話的で深い学びを実現する授業の構築	アンケート	教師の相互評価 (4段階評価)	肯定的評価 平均3以上

## 3 校内研修計画

<b>PLAN</b>	<b>本年度の研究の方向性の決定</b>	
	4月	研究組織決定、研究計画、研究推進計画 めざす姿の共有
	5月	実態把握のためのアンケート作成及び実態調査項目 検討 実態調査や意識調査の実施及び結果分析
<b>DO</b>	<b>研究仮説に基づく研究授業の実施・研究協議会の実施</b>	
	6月～7月	理論研修（教科研究、特別支援教育）
	8月	学習指導案検討 指導力向上研修
	9月～10月	学習指導案検討及び授業実践 I期
<b>CHECK</b>	<b>前期達成目標</b>	
<b>ACTION</b>	授業提案をもとに、より効果的な指導内容や指導方法、評価計画を検討	
	10月～11月	学習指導案検討及び授業実践 II期
<b>DO</b>	<b>研究仮説に基づく研究授業の実施・研究協議会の実施</b>	
	11月～12月	実態調査や意識調査の実施及び結果分析
	12月～1月	研究の成果・課題のまとめ
	1月～3月	研究紀要作成
<b>CHECK</b>	<b>後期達成目標</b>	
<b>ACTION</b>	検証計画に基づいた結果分析・来年度の計画	

#### 4 研究公開の予定について

公開予定日	なし
公開範囲	
公開内容等	(指定校・推進校等の名称、教科・領域等)